

六ヶ所村視察研修会

9月11日～12日に青森県六ヶ所村にあるエネルギー関連施設の視察を行いました。

【視察目的】

- 1 使用済燃料の問題解決に向けて
 - ①未だに稼働していない**再処理工場・MOX燃料工場**の現状を知る
 - ②生団連としてできることを一緒に考える
- 2 「夢のエネルギー」とも呼ばれる**核融合技術**について、開発の現状を知る
- 3 会員同士の交流を図り、充実した委員会議論に繋げる

【スケジュール】

- 9月11日
 - ・六ヶ所原燃PRセンター
 - ・原子燃料サイクル施設(視察①)
- 9月12日
 - ・国際核融合エネルギー研究センター(視察③)
 - ・六ヶ所村商工会会長(種子様)と意見交換(視察②)
 - ・ユラス六ヶ所ソーラーパーク(視察④)



▲視察メンバー 六ヶ所原燃PRセンターにて

【参加者】 11団体19名、50音順

関東シニアライフアドバイザー協会、グローバルテンプルサプライ、ゼンショーグループ労働組合連合会、ゼンショーホールディングス、全日本食品、高島屋、東京都地域婦人団体連盟、万城食品、明治労働組合、森永乳業、生団連事務局

視察①

◇六ヶ所原燃PRセンター・原子燃料サイクル施設

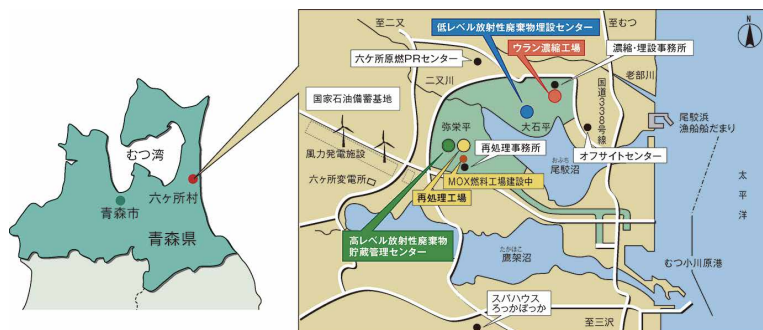
原子力発電で発生する使用済燃料の再処理等の現状について視察を含めて伺った

■ 事業内容

ウラン濃縮工場、低レベル放射性廃棄物埋設センター、使用済燃料受入貯蔵施設、高レベル放射性廃棄物貯蔵管理センター、**再処理工場**、**MOX燃料工場**

■ 視察のPoint

- ①再処理工場は、2013年12月に施行した「新規規制基準」に対応するため竣工延期を繰り返している。現在、工事の96%が完了し、**26年度の竣工を目指す**
- ②原子力発電の使用済燃料は、日本原燃で再処理することで、**資源の有効活用、高レベル放射性廃棄物の安定化・減容化が期待**できる
- ③再処理で発生するプルトニウムは、**核兵器に転用できない状態**で管理されている
- ④日本原燃の施設では、使用済燃料の最終処分はできない(中間貯蔵の事業を実施)
- ⑤日本原燃では、青森出身者の雇用、地元企業への発注、村内全戸訪問、文化イベントの開催など、**地域との共生に積極的**に取り組んでいる



▲立地:青森県六ヶ所村に東京ドーム160個分の土地

出典:(一財)日本原子力文化財団 原子力・エネルギー図面集



▲低レベル放射性廃棄物埋設模型

六ヶ所村視察研修会

視察②

◇六ヶ所村商工会会長と意見交換

六ヶ所村商工会の種市会長に、村民の立場、事業者の立場から、原子力関連施設との共生について伺った

■講演・意見交換のテーマ

原子燃料サイクル施設との共生について「共生社会の実現に向けた取り組み」～今やるべきことは～

■視察のPoint

- ①地勢が厳しく典型的な「出稼ぎの街」だったが、**日本原燃(株)によって安定的な職**が創出
- ②再処理工場の稼働延期について、「**また国に裏切られるのでは?**」という不安がある
- ③施設受入後、日本原燃が**全戸訪問したり、雇用を創出する**などして少しずつ村民理解が深まった
- ④原子力関連施設は、地域固有の産業資源として**誇りと共生する責任、覚悟**を持っている
- ⑤バックエンド問題(地層処分など)は、**国民全体で考えるべき。最終処分場が決まらない不安**がある



▲種市 治雄 会長(会場:ろっかぽっかにて)

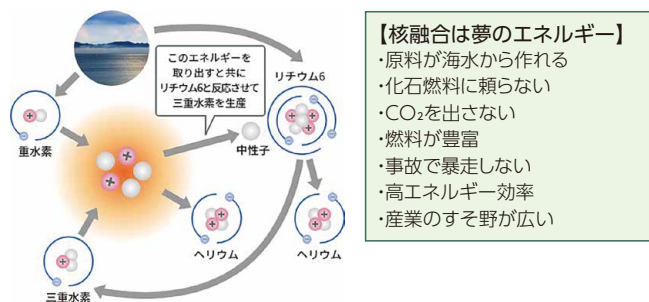


▲意見交換の様子

視察③

◇国際核融合エネルギー研究センター

夢のエネルギーと言われる核融合について研究実態を伺った。今世紀半ばに数十万kW発電実証を目指している



▲核融合反応イメージ

出典:文部科学省 https://www.mext.go.jp/a_menu/shinkou/fusion/

視察④

◇ユーラス六ヶ所ソーラーパーク

国内最大(2015年10月時点)のメガソーラーを見学した
東京ドーム50個分に相当する土地に50万枚以上のパネルを設置

一般家庭3.8万世帯に相当する発電量を誇る

視察を通じて太陽光発電に膨大な土地が必要であることを実感した



◀視察メンバー
ユーラス六ヶ所
ソーラーパークにて